

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 べにばな)

事業所番号	0670100940		
法人名	㈱東北医療福祉システムズ		
事業所名	やすらぎ苑山形		
所在地	山形県山形市東山形1丁目4-12		
自己評価作成日	平成28年 8月 23日	開設年月日	平成 13年 1月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、午前中は体操、歌、ゲームを通して、利用者を寝たきりにさせないように支援しております。お花見等、行事を通してボランティアによる歌や踊り、演奏等を楽しめるように取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 28年 9月 21日	評価結果決定日	平成 28年 10月 11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前庭のように広がる公園の桜の木々が季節毎に移ろい、散歩やデッキで四季を感じ、リビングでは調理の美味しい音や匂いが広がって、利用者もできることを手伝いながら、家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごしています。又、毎月ラーメンの日やボランティア歌謡の来訪、夏祭り・日帰り旅行・自然を愛でる花見は心身のリフレッシュに繋がり利用者の大きな楽しみとなっています。経験の豊富な職員も多く、明るく優しい対応や、看護師の配置で家族等の安心に繋がっており、利用者に明るく笑顔で喜んでもらえるように沢山の行事を企画し、取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時、理念を唱和している。全職員が常に関わりの中で理念に基づきながら対応している。	毎朝全員で申し送りをを行い、利用者の状態を把握して、利用者がその人らしい生活を送れるように家庭的な雰囲気大切に関わっている。新人職員に研修の機会を設け意識付けを図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の度、回覧や看板等で呼びかけ地域住民の参加を心かげている。目の前の公園で出会う方と挨拶したり交流しやすい環境である。又、地域の廃品回収の協力等行っている。	運営推進会議の発案で地区民生委員と職員の合同研修会を開催して成年後見制度についての学習や、地区防災訓練と訓練後の芋煮会に初めて参加するなど、新たに地域との理解や協力が深まり交流の輪が広がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症についての理解を広めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者の現状や活動を報告し、活発な質問や意見を貰いサービスの向上に活かしている。	会議では状況報告や事故の報告と対応・問題点なども情報提供し、助言や活発な意見をもらい改善に取り組んでいる。地区と情報交換の場でもあり、事業所の理解と協力関係につながっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の来訪を様々な時間で利用者のいろいろな場面と一緒に過ごして貰っている。報告書を回覧し、必要な事は改善できるように努めている。	生活保護受給の相談、書類の記載方法や業務の指導など情報提供を受けている。運営推進会議の報告書提出時に事業所の実情やサービスの取組みを報告し、連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠は行わず、センサーと常に所在確認で対応している。不穏な利用者は一緒に付き添ったりして対応している。居室内での転倒の恐れがある利用者は家族の了解をえて、センサー設置している。	安全確保について全職員がミーティングで統一を図り、拘束しないケアに取り組んでいる。状況により用具を必要とする場合には家族等へ説明し、理解を得たうえで安全を最優先にしたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で他所のケースや其々の利用者のケースに合わせた注意事項や情報を確認し合い、防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は外部研修を受けている。全職員の理解は不十分と思われる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が入所時に家族へ十分に説明し同意を得ている。家族からの質問等があった場合は最終的に管理者が対応できるように報告している。入所後の状態変更等で説明の必要性が発生した場合には、管理者より、説明がなされている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会等で家族が気兼ねなく話す事が出来る環境を心掛けている。又、利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし思いに寄り添ったケアの運営を心がけている。	家族等と常に話しやすい雰囲気づくりに心掛け、面会時に伺った意見や要望を「家族の声ファイル」に記して周知し業務に活かしている。職員の回覧は全て確認を印し共有を図っている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは随時、代表者とは月一回の会議の時に意見交換の場を設けている。又、代表者と職員の個人面談が継続して実施されている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、各職員個々の努力や天職、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者を通じて勤務状況を把握し、又、会議や個人面談により職員の思いや意見を聞く機会を設け少しでも最適な環境に近付けるよう努めるようにしている			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が其々の経験年数等に合わせた研修への参加を図り、研修後の報告を会議等で報告してもらいながら全員の知識・技術の向上に努めている。又、社内研修を企画しレベルアップに努めている。	新人職員にケアの技術向上を含め、全職員で自主的に各種研修を実施し互いに知識や技術の向上に励んでいる。経験や習熟度に応じて外部研修に参加し、研修結果は回覧とミーティングで報告を行い、全員で共有し業務に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会主催の研修や交換研修、又、個々の研修で同業者との情報交換に努め、質の向上を図る取り組みをしている。参加者が全職員に報告し回覧できるようにして伝達している。	職員は他事業所との交換研修を通して、利用者との食事作りや排泄の介助など気づきを得て持ち帰り、ケアに反映させて質の向上に繋げている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係者や家族からの情報を出来る限り収集し、事前面接で利用者とのコミュニケーションを通して、利用者が安心できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始段階から十分な説明を行い、家族の思いや今までの関わり方をしっかりと受けとめ、家族が安心して相談出来るような信頼関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望者の要望を聞き、必要であれば他施設の紹介や案内を含めた対応を行うようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話や家事活動の中でお互い学び合う気持ちで共に過ごし支え合う関係づくりに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時は大切に見守り、利用者や家族の繋がりがりや家族の思いや声を大事に捉え、家族と同じような思いで支援している事を伝えるようにしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の面会・外出があり馴染みの関係が継続して行えるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が輪の中に入れるよう、職員が話題をふり利用者同士の関わりが円滑に行えるよう配慮している。又、一人ひとりの心身の状態を見守り、場合によっては過度に干渉せず見守る事もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は、入院先の病院や施設へ、主に管理者が訪問したりする等して、出来る限り関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から本人の思いを汲みとれるように働きかけている。表出が困難な利用者は行動や反応、家族からの情報を基に本人の好みや意向の把握に努めている。	一人ひとりと朝の挨拶で顔の表情や会話から利用者の思いを受けとめ、変化を見逃さず毎日記録し全職員が把握している。利用者の笑顔と喜びが一日中見られるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートで情報を把握し、足りない所は可能であれば家族の協力を得ながらアセスメント作成して出来る限り把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握は申し送り、介護記録や伝言ノート等を使い把握に努めている。生活の中での発見する事もあり情報を共有しながら対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が毎月モニタリングを行い、カンファレンス時に全員で見直し、話し合いを行い介護計画を作成している。現状の変化に合わせてプランを変更する等している。	毎月モニタリングを通して家族等の意見も取り入れ全員で話し合い、利用者の良いところ今できていることを継続でき、利用者主体の生活が送れるよう計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアの気づきや工夫、本人の言葉や行動を記録し情報共有している。又、ケアプランチェック表を活用し、介護計画に沿った対応が出来ているか見直しに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々とコミュニケーションを図ったり連携に努め、利用者が楽しく暮らせるように支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診を月二回実施し現状の状態報告や相談を行ない適切な医療を受けられるようにしている。又、体調変化の際は受診支援を行い、家族の協力を得ながら適切に受けられるようにしている。	かかりつけ医や常勤の看護師と職員で連携し、利用者の健康管理に努めている。他医療機関を受診する際には家族側で対応してもらい場合もあり、家族側には日々の様子について細やかに状況を報告することで安心と信頼につながっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり、異変や異常時は状態報告し指示を受け、対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、家族や病院関係者との情報交換を蜜に行い、早期に退院できるように努め、又、安心して治療が出来るように支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	社外研修で終末期介護を学び、かかりつけ医と連携をとりながらチームで取り組んでいる。必要な方には終末期同意書を家族と取り交わしている。	本人や家族の意向を踏まえ、かかりつけ医の協力のもとで看取りが行われている。状況の変化に応じて家族側とも繰り返し確認を行い、安心と納得が得られるようにしてチームで取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス等で疑問や不安な点を解消できるように話しあったりしているが実践力は新採職員もおり十分とは言えない状況である。夜間時の対応には不安があり、訓練の機会を作り取り組めるようにしたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、全員参加の避難訓練を実施している。地域の方の参加もあり協力体制に繋がれるように取り組んでいる。	火災や地震を想定したマニュアルを作成し、訓練を重ねて利用者の安全確保に努めている。水害時の避難対策や地域との協力体制の必要性についても検討している。	災害時における地域からの協力体制の必要性について、運営推進会議の中でも取り上げられているが、いまだ未完成であり早急に築くことを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の誇りやプライバシーを損ねないよう言葉遣いや対応に配慮しているが、業務の忙しさや馴れ合いで難しい場合もある。カンファレンスの中で確認し合うようにしている。	利用者一人ひとりに話しかけるようにして寄り添い、その人らしい尊厳ある姿を大切に、穏やかな表情と和やかさをかもし出すように工夫している。プライバシーを損ねないように日常的に確認と改善に向けた取り組みを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせて声をかけ思いや希望を汲み取れるように努めている。意思表示が困難な方には表情や行動の反応を見ながら自己決定の場を作るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを尊重しながら一人ひとりのペースに合わせた対応に努めているが身体介護の方が多くなり、施設の決まりや職員の都合を優先してしまう事もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣替えと衣服が取り出し易いように整理に努め、外出や行事の時はおしゃれが出来るよう配慮している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食べ方やペースに合った食事を楽しめるよう心がけている。米研ぎや皮むき等の準備や片付けや食器拭き等を出来る方をお願いしている。	手伝いのできる人にはできることをなるべくお願いし、食の楽しみや喜びを引き出すように声掛けをして場面作りを行っている。調理の音や匂いで五感を刺激し、職員も同じテーブルを囲んで食の雰囲気づくりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の疾病、力に合わせた量、形態を考慮している。(トロミ剤使用や刻み食、カロリー制限等)水分量が不足しがちな方には声かけの工夫や時間をかけて配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず声かけで実施している。必要な方は介助で行い、義歯を夜間預かりポリデント洗浄する等対応している。社内研修で口腔ケアを学ぶ機会があり、改めてケアの重要性を再認識した所である。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンや状態を把握した上でケアを行ない排泄の自立に努めている。	自力排泄を目標としているが、リハビリパンツやおむつなども使い分け、それぞれの習慣やパターンに応じて排せつ介助が行われている。汚れた場合には困惑や恥ずかしさを軽減するために言葉や態度に注意し、周囲への配慮を怠らないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操と歩行運動を毎日行ない、長めにトイレに座り排便習慣が身につくように取り組んでいる。極度に排便が見られない方には薬に頼りがちである。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日中の決めた時間の中で対応しているが、好みの温度や順番で入れるように支援している。	生活習慣や希望にあわせた入浴方法で、無理強いすることなくゆったりとくつろげるように支援している。浴槽には前日から水をはっておき追い炊きで対応するなど、震災を教訓に災害時にも活用できるように備えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や状況に合わせた休息や就寝を出来るように対応している。季節に合わせた室温の調整や寝具を選択し又、好みの明るさで休めるように配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録ファイルに薬の説明書を綴じて常に確認できるようにしている。又、処方の変更があった時は専用のファイルに記録し迅速に確認できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し個人の嗜好品や楽しみごとに対応できるように努めている。天気が良い日等は外出や散歩、ドライブ等で気分転換できるよう努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分や希望に沿った外出支援を行っている。日常的に心身の活性化に繋がるように日々取り組んでいる。	散歩やドライブ、買い物など積極的に出かけて五感刺激を得られるように努め、花見や夏祭りを開催して家族も参加したり、バスを使った日帰り温泉旅行なども楽しんでいる。利用者の状態や有する力、希望などその時々状況に合わせて支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者が施設管理となっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、全員が年賀状を出せるよう支援している。家族からの電話に本人が話せるよう取り次ぐ事もある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには観葉植物や生花を飾り、季節を感じる事ができるような装飾をしている。又、普段の写真も定期的に変えながら掲示している。向かいが公園のため四季折々の景観を楽しめる。	リビングから移り行く景色を眺めながら一日の大半を過ごす人が多く、部屋と自由に行き来してくつろいでいる。ソファを置いて利用者同士が和めるように配慮されており、台所の音や匂いが生活感を与え、活力を引き出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で会話できるよう席を近づけたり、居室に案内したりして一人でゆっくり休息できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に設置したボードに家族との写真や好きな芸能人のポスターを貼るなどして、居心地良く過ごし易い空間作りをしている。本人が使い慣れた鏡台や日用品を置く事で自分の場所と感じてもらえるようにしている。	馴染みのものを傍に置いたり仏壇なども祀り、その人らしい部屋づくりで自由に設えている。毎朝行う掃除には手すり拭きなどのできる範囲のことを手伝ってもらい、清掃も行き届いて温かい雰囲気を感じさせ、利用者も和やいでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に表札、トイレの表示を見やすくしている。洗面所と玄関に椅子を配置し、環境面での自立支援に繋がるようにしている。		